

■有賀喜左衛門 民俗学者。戦前期には稀な長いモラトリアムを過ぎて成熟、農村社会学を理論的に確立させた。

あるがきざえもん

八幡製鉄始・1897＝ 長野県上伊那郡平出村で、6世喜左衛門・せいひの長男に生まれる。幼名道夫。
政党内閣初・1898＝ 1歳：母が死去。

日比谷公園・1903＝ 6歳：朝日村立尋常小学校尋常科に入学。

日露戦争終・1905＝ 8歳：
満鉄発足・・1906＝ 9歳：父が死去したため、7代目喜左衛門を襲名。

伊藤博文暗殺1909＝12歳：長野県立諏訪中学校に入学。交通不便のため寄宿舎に入る。

明治天皇没・1912＝15歳：

21ヶ条要求・1915＝18歳：仙台的第二高等学校の一部乙類(独法科)に入学。同学年に終生の友となる渋沢敬三がいた。

ロシア革命・1917＝20歳：この年、第二高等学校の一部乙丙類に入学してきた岡正雄と親交、
第一次大戦終1918＝21歳：卒業。東京帝国大学法学部を受験するも失敗。河上肇に惹かれ、京都帝国大学法学部に入学するが、
ベルサイユ条約・1919＝22歳：日本に衝撃を与えた「朝鮮万歳事件」が起き、〔読売新聞〕の柳宗悦「朝鮮人を思ふ」を読んで感銘。退学して、
東京帝国大学文学部(美術史学専攻)に入学、上伊那郡の小学校で開催されたウイリアム・ブレイク展覧会に行き、柳宗悦の講演を聞き、戸倉事件で免職になった信州白樺派教師赤羽二郎らの〔地上〕創刊号に過激な詩「生きようではないか」を発表するなど、モラトリアム的な精神はすでに十分、

原敬首相暗殺1921＝24歳：渋沢が「アチックミュージアムソサイエティー」を始める。赤羽が京城の学校に赴任。柳宗悦が朝鮮民族美術館の設立運動を興すと、朝鮮美術の研究を志し、卒業論文制作のため朝鮮に行き、浅川巧宅で、柳・赤羽と再会するも、大腸カタルとなり入院。退院後、柳・赤羽らと仏教美術を見て回って、帰国。

水平社結成・1922＝25歳：卒業し、同大学院に進学。信州白樺派の雑誌〔創作〕が創刊される。徴兵検査に甲種合格、
関東大震災・1923＝26歳：修了。兵役免除となる。第2次〔白樺〕の編集委員となるも、震災で廃刊。
護憲三派圧勝1924＝27歳：結婚。岡正雄と、前年帰国した柳田国男を訪れて、柳田が創刊した雑誌〔民族〕の編集委員となる。
治安維持法・1925＝28歳：柳田を郷里諏訪の御柱祭に案内。ロンドンより帰国した渋沢が再開した〔アチック・ミュージアム〕同人。
金融恐慌・・1927＝30歳：柳田に叛旗を翻した岡正雄らと〔民俗学〕の編集委員として準備すすめ、
世界恐慌・・1929＝32歳：*〔民俗学会〕を設立し、柳田の〔民族〕廃刊に代る〔民俗学〕創刊するとともに、「真澄遊覧記濃の部の刊行に際して」を発表、自ら感じていたことが菅江真澄と出逢って確かなものになり、「民俗学の本願」で、自らの人文・社会科学論の原型を素描することになる。

海軍軍縮条約1930＝33歳：同志と、民俗学研究の同人雑誌〔郷土〕を創刊。
満州事変・・1931＝34歳：社会経済史学会評議員に就任。
五一五事件・1932＝35歳：「関東地方の生活の今昔」という題でラジオ放送、自らの考え方が初めて一般に知られる。
国際連盟脱退1933＝36歳：義母が死去。その後の研究の出発となる「捨子の話」、続く「名子の賦役～小作料の原義」、
帝人疑獄事件1934＝37歳：「不幸音信帳から見た村の生活」。渋沢から、石神村の名主斎藤家の大家族の事例を教えられると、
芥川直木賞始1935＝38歳：前年古野清人らが設立した日本民族学会の評議員に就任。最初の石神訪問。「予祝行事」、
二二六事件・1936＝39歳：単独で再訪し、詳細な調査。「イロリ雑考」など、ほとんど独学できたが、
日中戦争始・1937＝40歳：
健保+総動員 1938＝41歳：「さなぶり」あたりになって成熟、農村研究の基礎は社会学であると日本社会学会に入会、ようやくアカデミズムの世界に参入。「農村社会の研究-名子の賦役」を出版、

第二次大戦始1939＝42歳：アチックミュージアムより、*石神村の大報告書「南部二戸郡に於ける大家族制度と名子制度」出版で確立。
日米開戦・・1941＝43歳：
近代の超克・1942＝45歳：圧力で、アチック・ミュージアムは〔日本常民文化研究所〕と改称され、研究活動も縮小。
創価学会検挙1943＝46歳：日仏社会学会の理事。〔日本家族制度と小作制度〕、
年金+総武装 1944＝47歳：日本社会学会の理事。
敗戦・・・1945＝48歳：郷里の平出に疎開。
新憲法公布・1946＝49歳：〔朝日村同志会〕を結成して農事講習会(農談講)を開催後、逗子に移住。東京大学文学部非常勤講師。
極東裁判決・1948＝51歳：生活の諸事がどんな意味を持つか問いかけた「村落生活」、
三大事件・・1949＝52歳：*発足した東京教育大学の文学部教授に就任、協力得て、社会学教室の整備にあたる。大卒後27年にして、初めて常勤の職業に就く。

朝鮮戦争始・1950＝53歳：8学会連合の対馬総合調査(団長渋沢敬三)に参加。日本文科学会の共同研究「社会的緊張」の班長となり、
独立回復・・1951＝54歳：茨城県恋瀬村、長野県塩瀬村を現地調査。
メーゴ事件・1952＝55歳：豊科町から研究室への依頼で町誌編纂開始。〔村落社会研究会〕を設立、
自衛隊発足・1954＝57歳：文学部紀要(社会科学論集)創刊。論文集「家・その構造分析」刊行。〔村落社会研究会年報I〕刊行。
55年体制始・1955＝58歳：縮小を余儀なくされたが、「豊科町誌」刊行。
国連加盟・・1956＝59歳：「日本家族制度と小作制度」により文学博士。オランダでの、第3回国際社会学連合世界会議に日本学術会議代表として出席、ヨーロッパ諸国を歴訪して、帰国。

なべ底不況・1957＝60歳：定年退官。慶応大学文学部哲学科(社会学)教授に就任。
インフレーション・1958＝61歳：「南部二戸郡に於ける大家族制度と名子制度」の後篇一をまとめ、
安保闘争・・1960＝63歳：以降2年、日本社会学会会長となり、この年の大会シンポジウム「同族とその変化」で座長をつとめる。
タイタイ病始・1961＝64歳：高等学校用教科書「倫理・社会」執筆し、
TV宇宙中継始1963＝66歳：出版。渋沢敬三が死去。クリーブランドでの日米共催シンポジウムに出席、アメリカ各地を旅行して、
東京オリンピック 1964＝67歳：帰国。九州大学での講義のため、鹿児島市にゆき、赤羽と再会。
大学紛争始・1965＝68歳：慶応大学を定年退職。日本女子大学の学長に就任。
いざなぎ景気1966＝69歳：石神村を再訪調査して、「南部二戸郡に於ける大家族制度と名子制度」に後篇二を加え、大幅に拡充、
美濃部都知事1967＝70歳：刊行始まった「有賀喜左衛門著作集」の最初の配本第3巻におさめる。
全共闘ピーク・1969＝72歳：日本女子大学でも学園紛争が激化し、学長としてしばしば学生との団体交渉に臨み、
大阪万博・・1970＝73歳：授業の遅れ、4年生の卒業問題等の処理に苦慮。
ドルショック・・1971＝74歳：「有賀喜左衛門著作集」全11巻が完結。
石油ショック1973＝76歳：*日本女子大学学長を退任し。以後、研究に専念。

田中角栄逮捕1976＝79歳：妻が死去。民具学会が創設される。
JALハイジャック・1977＝80歳：東京教育大学社会学部解散総会で講演。
成田衝突・・1978＝81歳：家族問題研究会で講演「日本人の先祖信仰について」。NHK教育テレビの番組「わたしの自叙伝」に出演。
革新大敗北・1979＝82歳：明治学院大学社会学部50周年記念学術講演「外国文明と日本文化」。NHK教育テレビの番組「柳宗悦」に出演などしたが、肺炎のため、没した。